会　　議　　録

会議の名称	令和３年度第１回ひろさき教育創生市民会議
開催年月日	令和３年７月２０日（火）
開始・終了時刻	午後２時３０分　から　午後４時１８分　まで
開催場所	岩木庁舎２階　多目的ホール（弘前市大字賀田一丁目１番地１）
座長の氏名	国立大学法人弘前大学　教育学部　教授　戸塚　学
出席者	座長　戸塚　学　　委員　安田 由貴子　　委員　松橋　俊輔 委員　奈良岡 淳　　委員　松山　正男　　委員　福島　龍之 委員　鈴木　勝久　　委員　中井　浩二　　委員　本田　親男 委員　古木名　博　　委員　中村　和敏　　委員　相馬　隆子 委員　石川 かおる　　委員　川越　俊昭　　委員　大湯 惠津子 委員　三上 美知子　　委員　太田　脩皓　　委員　佐藤　義光 委員　黒木　和実　　委員　境　江利子　　委員　小山内　修 委員　藤田　俊彦　　委員　佐藤　優輝　　委員　宮地　善道 委員　高橋　信進
欠席者	委員　古川　浩樹　　委員　小舘　孝浩　　委員　浅原　奈苗 委員　髙山　洋子　　委員　石山 いつ子
事務局職員の職氏名	教育長　吉田　健　　教育部長　鳴海　誠 学校教育推進監　横山　晴彦　　教育総務課長　菅野　洋 学校整備課長　高山　知己　　学務健康課長　相馬　隆範 学校指導課長　鈴木　一哉　　教育センター所長　小笠原 恭史 生涯学習課長　原　直美　　中央公民館長　中川　元伸 博物館長兼高岡の森弘前藩歴史館長　石岡　博之 文化財課長　小山内 一仁
会議の議題	議事（グループ討議） 「弘前市総合計画後期基本計画策定に向けて 『政策① 学び　政策の方向性２ 生涯学習体制の推進』について」
会議資料の名称	・「弘前市総合計画前期基本計画」抜粋　（資料１及び２） ・「弘前市総合計画前期実施計画」抜粋　（資料３）
会議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	１　開会 ２　委員紹介 ３　教育長挨拶

	４　議事（グループ討議） 「弘前市総合計画後期基本計画策定に向けて 『政策① 学び　政策の方向性２ 生涯学習体制の推進』について」 ～生涯学習に関して、「どういう学びの場を提供できるか」、 「どのような学びの場があればよいか」～ ５　報告（非公開） ６　閉会 **【内　容】**（概要） **３　教育長あいさつ** 本日は御多用のところ、また、猛烈な暑さの中、「ひろさき教育創生市民会議」に御出席いただき感謝申し上げる。委員の皆様には、令和元年度の第２回会議から２年の任期で委員をお願いしており、本日の会議で一区切りとなる。予期せぬ新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送らざるを得ない時期もあったが、この２年で合計４回の会議を開催してきた。議事のテーマとして、「地域住民の学校への関わり」、「公民館活動の活性化」、「市の文化財の活用」、「奨学金制度の在り方」、「with コロナ時代 教育はどうあるべきか」など、幅広い内容について取り上げ、協議していただいた貴重な御意見や御要望はいずれも、本市の教育行政の参考とさせていただいており大変感謝している。 本日の議事のテーマは、「弘前市総合計画後期基本計画策定に向けて生涯学習体制の推進について」としている。当市では、未来都市像「みんなで創り みんなをつなぐ あずましいりんご色のまち」の実現に向け各種事業に取り組んでいるが、令和４年度末で前期基本計画は計画期間を終えるため、後期基本計画の策定に向けて、生涯学習体制をより一層推進するために、皆様がこれまでお感じになられていることや日頃からお考えになっていることなど、忌憚のない御意見をお願いする。 本日の会議が実りあるものとなり、明るいまちづくりに繋がることを期待して挨拶とする。 **４　議事（グループ討議）** **「弘前市総合計画後期基本計画策定に向けて** **『政策① 学び　政策の方向性２ 生涯学習体制の推進』について」** **～生涯学習に関して、「どういう学びの場を提供できるか」、** **「どのような学びの場があればよいか」～** **（事務局説明）** （資料１ ページ No.30）

	当市では、市の施策を進める上での最上位計画として、平成３１年３月に総合計画を策定している。 「１基本計画の意義」については、基本構想に定めた将来都市像を実現するための具体的な施策を示している。前期基本計画の期間は２０２２年までの４年間であり、２０２３年からの後期基本計画の策定のため、本日、委員の皆様から様々な御意見を頂戴したいと考えている。 （資料１　ページNo.46） 本日議題とした政策は、「①学び　２生涯学習体制の推進」である。 （資料２　ページNo.60） 前期基本計画では、「生涯学習体制の推進」を「政策の方向性」とし、「政策課題指標」を「生涯学習活動をしている市民の割合」とした。後期基本計画においても、市民が公民館、社会教育施設、ＮＰＯ、大学、企業等と連携し、生涯学習体制の充実を図ることが重要と考えている。 （資料３　ページNo.12） 「２生涯学習体制の推進」のための主な事業が記載されている。生涯学習の機会を提供する側の育成や、携わる者の資質向上を図る研修事業、弘前大学との協働による新しい分野の開拓や、地区公民館を拠点として地域コミュニティの活性化を目指した事業などがある。これらの事業の他にも、まだまだ生涯学習の機会を与える方法は多くあるのではないかと考えている。 様々な分野の委員の皆様には、個人として期待する生涯学習の場や、職域で可能な生涯学習の機会や協働の可能性、市に求める事業のあり方などについて、御意見をいただきたい。 **○質疑応答（発言なし）** 座長から、グループ討議の進め方について説明 **○グループ討議** **○各グループからの報告** （Ａグループ） Ａグループは、生涯学習ということなので、全市民の、例えば人間性を磨いたり豊かな人生につながったりするものでなければいけないということは確認しつつも、時間の関係もあったので、子どもを中心に話し合いを進めさせていただいた。 その中でまず、子どもたちに「自信」が大切だということになった。子どもたちが自信を感じられる、例えば、得意なことや好きなこと、そういった自己効力感を高めるような活動や学びも必要だけれども、やは

	り、自分は特別な大切な存在だということで、自尊感情を高めるという活動や学びが重要なのではないかという話がでた。また、子どものことについて話し合ってはいたが、やはり、子どもたちにそのような場を提供すると同時に、大人も子どもたちにそういった自信や自己効力感であったり自尊感情であったりというものが、子どもの発達に重要だということを大人も同時に学んでいく必要性。それを地域で、保護者だけではなくて、地域のみんなが学んでいって、子どもたちの発達を支えていくことが必要だという話になった。また、子どもの世界やその時代のニーズを的確に把握することの重要性という話もでた。今の時代では、例えば、どんな仕事があるのだろうとか、仕事の種類や収入について、税金や社会保険や株、権利や性、そのようなことについて教育が必要となっている。権利教育は今でもされているが、その権利が子どもたちにもあり、どのように権利を使うかという教育。あとは性に関しても、ＬＧＢＴＱをはじめとして、例えば男女の付き合い方やその問題など、生活に密着した形の教育が必要ではないかという話がでた。 　例えば通信機器というのもどんどん発達していくと思うので、そこに合わせた子どもたちへの次の時代の教育。また、大人もそれに追いつくような知識が必要になってくると思うので、常にみんなが学びなおしていく視点というのが重要ではないかという話になった。 （Ｂグループ） 　出ていたキーワードは、「子育て」、「スマホ」、「防犯」。警察が発信するワークショップや活動の中でのマップづくり、また、子どもをもつ親のスマホマナー、ラインでつながって保護者同士で学校の先生の情報などのやり取りに対しての意識などがあった。「どういう場所で」というところでは、公民館が上がっていた。「連携」。とにかく、地域、また、様々な関係機関との連携を重要視しているという話もあった。 　保育所や認定こども園といった就学前児童が利用する施設では、０歳から６年間、就学前まで在籍することもあるが、その間、朝とお迎えに来た時、必ず保護者と職員は顔を合わせる。その就学前のタイミングを絶対に逃がせないという意見がでた。就学前児童の保護者への伝え方や家庭教育。例えばスマホ。スマホに子育てをさせている人も今の時代当たり前に存在している。そういった保護者にも寄り添いながら、だけれども注入していくという意見がでた。子育てはこうありたい、小学校にいく前に気をつけてわかっておくべきことを教えていく立場が園の職員であったりする。新型コロナ感染症の影響で、色々な生涯学習の場は本格的に動けない。そんな中で、今ある施設で職員が子育てをしている保護者に対して、いかにアプローチしていくか、いかに注入していくか、そういったことが重要かなという話であった。 （Ｃグループ）

	多様な意見が出された。 学びの場を増やすということで、様々な既存の大学を利用しながら、社会人入学や通信大学、放送大学を含めて県内外から募集をして、そして若年層も含めて移住定住に繋げていけないかという意見がでた。知識の吸収型から実践への体験型に移行していくような学びの場が必要であり、官民連携もやっていけるといいのではないかという意見がでた。 多世代交流を代表しているということで、町会の子ども会を活性化していくためには、公民館で少年指導員との連携をもっと深めることで、より活性化していけるのではないか。また、保護者もラジオ体操等に関心を持って参加して欲しいという意見がでた。 コミュニティスクールの場も地域住民が主体となって発出向上して、コミュニティスクールが活性化、推進できればいいという意見がでた。 縄文遺跡、今後はもっともっとボランティアや学びの場も含めて、活用をしていけるのではないかという意見がでた。 再交流の場と、学びの場として、ボランティアに導くための場をつくる。あるいは、国際交流で退職教師のボランティアの場の提供も含めて、国際交流ボランティアも推進していけるとよいのではないかという意見がでた。 全体を含めて、やはりＰＲの仕方も含めて、もっとＰＲできればいいという意見がでていた。 また、学びの場の提供としては、弘前第一養護学校高等部が行っているＩＣＨＩカフェも、新型コロナ感染症の影響で今はできていないが、ＩＣＨＩカフェを活用することで地域との交流の場になり、市民講座といった地域の人の学びの場ができていくのではないかという意見がでた。 （Ｄグループ） Ｄグループでは大きく、「健康」、「歴史」、「家庭」、「その他」に分類された。 「健康」に関する意見としては、弘前市の大きなスポーツイベントとしてアップルマラソンがあるが、年間を通してコースを走っている人も多いので、気軽に楽しめるように、水飲み場を設置するであるとか常設コースを整備するなどの意見や、また、設備を充実させることでアップルマラソンを県内外からより人の集まるイベントとしていくのはどうかという意見があった。また、生涯健康、健康増進として、高齢者を対象とした街角部活動があればいいという意見があった。 「歴史」に関することとしては、観光ボランティアの育成対象を中学生あるいは高校生へと広げていくことで、より子どもたちのこの街の歴史に関して学べる環境が整っていくのではないかという意見がでた。 「家庭」に関する意見としては、児童虐待などが問題になっているが、そのような観点から、親育ての場を設けることがより大切なのではない

	かという意見がでていた。 「その他」に関しては、実践方式で学べるものがよいのではないか、人から与えられる学びよりも人に与える側に立つことで、より学べることがあるのではないかという意見がでた。 （座長） 今、４つのグループから発表があったが、これに関して質問やお考え、また、本日の議題についても含めて、何か御意見やお話等いただける方がいらっしゃれば挙手いただきたい。 （高橋委員） Ｃグループで国際交流を提案したが、弘前市における国際交流の事業、県では国際交流協会というのがあるが、弘前市ではどのような受け方なのか教えていただきたい。教育委員会でそのような窓口はないのかな。 （中央公民館） 今年度、県の国際交流課から「弘前市で事業に取り組んでいただきたい」との依頼があり、会社等と協議しており、今年度、２回から３回程度国際交流ということで事業を予定している。 （高橋委員） 弘前市は国際交流に関してブランクがある。日本語教育に関して、青森市や八戸市は非常によくやっているが弘前市はよくやっていないという評価がよく聞かれる。お願いしたいのは、国際交流事業として項目を設定し、強化していくよう検討いただきたい。また、場所もあまりなく、ボランティアの人たちも大変苦労しているので、その辺りの支援についても何とかお願いしたい。 （座長まとめ） 国際交流に関してのお話や、後期基本計画の策定に向けて「生涯学習体制の推進」という題目で各グループから御発言をいただいた。 今、だんだん時代が変わってきている。学校教育も今、大きな変わり際にきていて、令和型の日本の教育というものが出てきている。Ｃグループでの議論で、「知識」から実際の「実践」や「行動」の方に教育の方向性をシフトしていくという話が出ていた。これは学校教育も同じで、知識の体系化から能力の体系化に、実際に何ができるかということにシフトしていくところにきている。生涯教育もそうした行動や実践、実際に私生活に生かす能力をより養っていく部分、一方で、Ａグループが話されたような、時代や社会の変化やニーズにしっかりと照準を合わせて、それに合った生涯教育をどのように考えていくかというのが非常に重要な課題だなと感じた。その中での１つのキーワードとして国際交流とい

	うことで、学校教育は今、「Ｇｌｏｂａｌ ａｎｄ Ｉｎｎｏｖａｔｉｏｎ Ｇａｔｅｗａｙ ｆｏｒ Ａｌｌ」、ＧＩＧＡスクール構想というものがある。これは、グローバルとイノベーション、どんどん広がっていく、変わっていく世の中に対して、全ての子どもたちを１人残さずに、きちんとそこの入り口に立ってその中に入っていく機会を与えようというような方向にいくのだが、まさに、生涯教育もそういった時代の変化、そして実際の実生活に必要なものをしっかりと見つめて、中に入っていくための組織や仕組みが必要なのかなと感じた。一方で、まだまだ既存の色々な生涯教育のシステムというものには可能性があるのではないか。Ｂグループでシステムに注入していくと話されていたが、やはり、既存のシステムを諦めるのではなく、ニーズに合わせていくという部分では、そこを極めていく、そこで確実なものにして、いいものは続けていくように、今一度確認をしないといけない部分もあるのかなと感じた。 　親を育てるとか次世代の交流というような話も出てきていたが、１つは世代の部分、縦軸、世代を超えるとか世代を跨ぐとか。どんどん成長していく中で、生涯教育なので終わりはない。その縦軸をどのように見ていくのかということと、一方で、グローバル化とか国際交流の話であったり、逆に歴史的な部分であったり。今、縄文遺跡が今月の終わりにきっと認められるのではないかというところだが、そういった、時間軸でいうと横軸の部分。縦軸の部分と横軸の部分を整理しながら生涯教育を考えていくというのも１つ、ありかなと思って、今日のお話を聞いていた。 　色々な議論を続けてきたが、今回この会議は２年という任期のひとつ、皆さんも含めて、終わりになる。私も議長の任期がひとつ、終わりになる。拙い進行ではあったが、皆さんの御協力のもと、色々な意見を伺うことができて、私も非常に勉強になった。心より感謝申し上げる。 　事務局から、令和３年度第２回会議の日程等について連絡。 **５　報告（非公開）** **６　閉会**